
整形外科医による整形外科医のための 漢方入門

日本の伝統医学である漢方は、内科・外科などの一部の領域ではエビデンスが蓄積され、ガイドラインにも収載されるようになってきている。しかし、まだ十分に活用されているとは言えず、新型コロナウイルス感染症に対しても漢方薬が話題になることはほとんどない状況である。特に、整形外科医への普及は遅れている印象で、強い言い方をすれば、患者・国民が不利益を被っており、われわれ医療者側の怠慢と言われても仕方ない状況とも言える。

一方で、整形外科の研修を受ける際に漢方薬の使い方を学ぶ機会はほとんどないのが一般的で、馴染みのない“難しそうな理論”の漢方に自主的に手を出せないのも頷ける状況で、筆者自身もそうであった。ある外科系学会への参加を契機に一念発起して独学で漢方を学んできたが、現代医学とは違う医学に慣れるまでに時間を要し、また、整形外科領域の漢方を整形外科医以外から学んでも、少しピンとがずれたような違和感を抱いていた。

そこで、本特集では、内科・外科医や麻酔科医でなく、普通の“整形外科医による、整形外科医のための”漢方入門を企画した。従来の漢方教育では、前提となる漢方の理論や“証”などをマスターしてからやっと漢方薬を処方できるという流れだが、初心者にはいきなり高い壁を越えることが要求され、障壁となっていた。しかし、近年は病名処方的に漢方薬を使い始める方法や、漢方を現代医学的に解釈して利用していく方法を推奨するエキスパートが増え、初心者にとっての壁が低くなっている。さらに、整形外科医向けに漢方の発信をする整形外科医も徐々に増えてきた。ようやく、普通の整形外科医が従来の診療の補助として気軽に漢方薬を使い始められる環境が整ってきたのである。

本特集の前半は、漢方初心者で漢方を本格的に勉強する気もない整形外科医でも、簡単に漢方薬を処方できる方法を紹介している。中盤では、様々な専門領域の整形外科医にお勧めの漢方薬の使い方を紹介してもらい、後半は、漢方をより深く勉強したい、あるいは既に漢方を活用している整形外科の先生方にも興味をもっていただけるような内容となっている。オール整形外科医の執筆陣による、整形外科医のための初めての実践的な漢方入門特集になったと自負している。日本の伝統医学の結晶である漢方エキス剤を従来の日常診療の補助としてお役に立てていただければ幸いである。

(山川聖史)